



# イージーショット

## 取扱い説明書

TIME CHEMICAL

### 液体の噴霧からエアブローまで



#### 【共通】

#### ※用途

- 粘度が30cps以下の下記薬液のスプレー、注入及びエアブロー  
スパッタ付着防止剤、切削油、洗浄剤、脱脂剤、浸透油、溶剤、潤滑油 等  
(粘度30cpsとは、大体トマトジュース程度の粘度が目安です。)
- 酸のように、金属表面を傷つけたり攻撃するような液体は使用しないで下さい。

**注** #2500は油ないし溶剤系、#2800Mは水溶性の液体に使用下さい。  
また、#2800Mには塩素系溶剤やアンモニア溶液は使用できません。

機種	材質(本体)	高さ	重さ	充填液量
2500	鉄製 (黒塗装)	22cm	900g	約1000cc
2800M	アルミ製	27cm	735g	約710cc

#### 使用方法

#### 2500

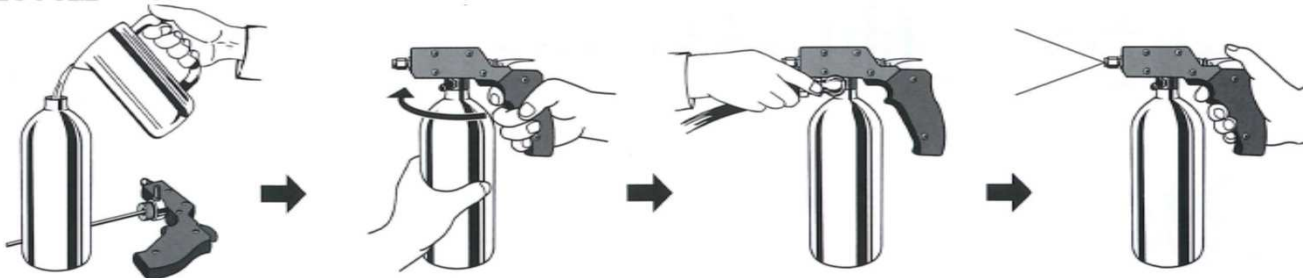


フィルターキャップを外し、液をタンクの8分目まで入れます。

フィルターキャップを締め直し、フィルタにエアチャックを押し当てて圧縮空気を充填。(0.5~0.MPa)

以上で使用できる状態になります。

## 2800M



まずハンドル本体を外し、液をタンクの2/3まで満たします。

ハンドル本体とタンクをしっかり締め直して下さい。

バルブにエアチャックを押し当てて圧縮空気を充填。(0.5~0.7MPa)

以上で使用できる状態になります。

### ※ 使用前の注意

- 容器の中にゴミが入らないように液を入れて下さい。
- 液を多く入れすぎますと、1回のエア充填で全量噴霧しきれなくなります。(上記充填液量参照のこと。) その場合は、途中で再度エアを充填して下さい。

### ※ 使用上の注意

- 部品を取り外したり、ゆるめたり、溶液を充填する場合は、必ず本体の圧力を抜いてから行って下さい。  
{ 本体を垂直に立てた状態でフィルターキャップ No.156内のバルブコア、フィルタ No.B11内のフィルタコア }  
{ を押すか、又は、本体を逆さまにして噴霧ノズルを押します。 }
- 加圧は、各部品を所定位置にしっかりと締めつけた状態で行って下さい。
- 本体は1.4MPaの耐圧試験に合格していますが、使用圧力は1.0MPa以下でお願いします。  
(通常0.5~0.7MPaで使用下さい。)
- 容器に溶液を入れたままで長期間保存しないようにして下さい。  
(特に、塩素系溶剤を使用の場合は注意して下さい。)

### ※ 使用後の注意

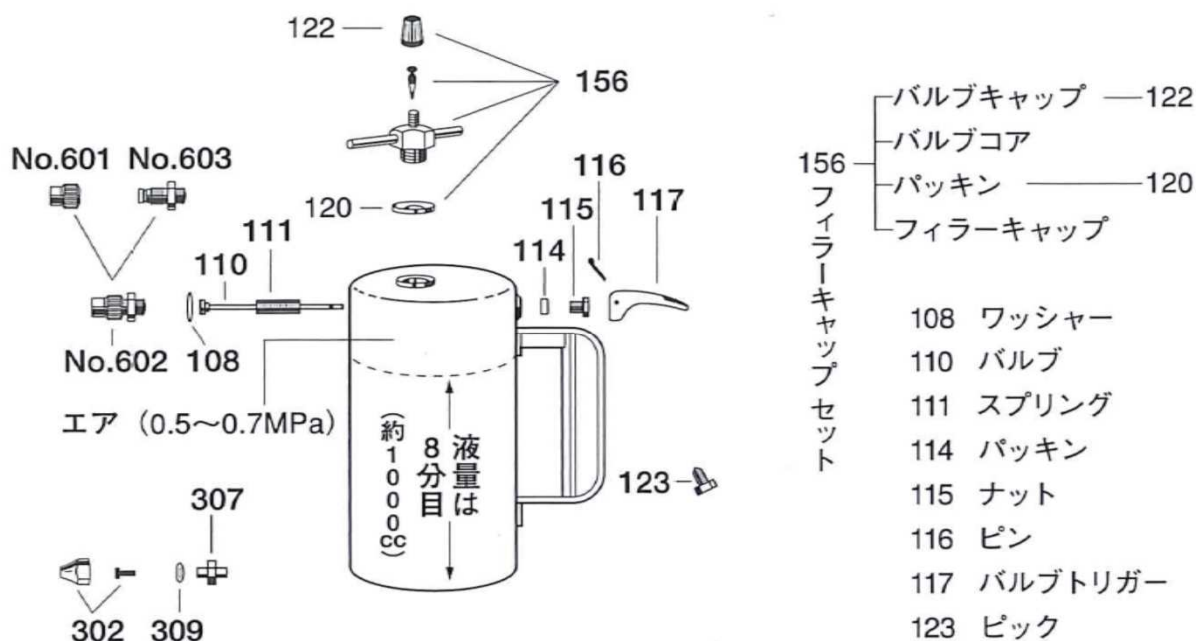
- 使用后、逆さにして液が出なくなるまで空吹きして下さい。  
(次回使用する際のつまりを防止します。)

### ※ 品質保証期間

消耗品ということで、半年間とさせて頂いております。

以降に、トラブル時の対策をまとめております。参照下さい。

## 【2500】



### ※ #110バルブの清掃

- 1) **いかなる部品を取り外す場合は、事前に脱圧を行って下さい。**
- 2) #156ファイラーキャップセットを取り外す。
- 3) ノズルとアダプターを取り除き清掃する。
- 4) これで見えるようになった#110バルブの表面を清掃する。  
同じく現れたアダプターの後部による円形のくぼみも、きれいに清掃する。
- 5) アダプターとワッシャーを元に戻し、締め付ける。
- 6) #110バルブの表面とアダプターの後部の間にあるシールをリセットするため、#117バルブトリガーを数回弾く。
- 7) 清掃したノズルとワッシャーを元に戻し、締め付ける。
- 8) #156ファイラーキャップセットを元に戻し、締め付ける。
- 9) スプレーを加圧する。
- 10) もし漏れが持続するようなら、#110バルブを交換する。

### ※ ノズルの清掃

- 1) **いかなる部品を取り外す場合は、事前に脱圧を行って下さい。**
- 2) アダプターはそのままに、ノズルを運転時の位置から取り外す。
- 3) 極小ニッパーを使い、ノズルからスパイラルを取り外す。
- 4) 洗浄剤で、ノズルとスパイラルを洗浄する。
- 5) 取付前に、ノズルのオリフィス穴とスパイラルの細い溝が充分きれいであることを確認する。
- 6) スパイラルをノズルの中に戻し、ワッシャーを含めて組み立て直し、締め付ける。
- 7) もしノズルが正しく噴霧しないようなら、ノズルを交換する必要がある。

※ **問題： スプレーが全く噴霧しない。**

- スプレーが液で満杯。 ➤ 液量を2/3 に下げる。
- エア圧がない。 ➤ 加圧する。
- ノズルが完全に詰まっている。 ➤ ノズルを清掃する。(上記参照のこと。)

※ **問題： 霧状でなく棒状での吐出**

- 濃度が濃すぎる。 ➤ スプレーできるまで希釈。
- エア圧が小さすぎる ➤ 80Psiの圧力が必要。
- 棒状流れノズルが設置。 ➤ スプレーノズルに変更。
- スプレーノズルにスパイラルが入っていない。 ➤ スパイラルを取り付ける。

※ **問題： #115ナットからの洩れ**

- #115ナットが緩んでいる。 ➤ #115ナットを1/16廻して締める。  
#115ナットの先の#110バルブのステムに潤滑油を1~2滴たらす。  
潤滑油が#115バルブの周りに着くよう、スプレーを傾ける。  
#117バルブトリガーが油の中で作動するよう弾く。
- #114パッキンが傷ついている。 ➤ #114パッキンを交換する。

※ **問題： #117バルブトリガーが固い**

- #115ナットが固すぎる。 ➤ #115ナットを1/16廻して緩める。  
#115ナットの先の#110バルブのステムに潤滑油を1~2滴たらす。  
潤滑油が#115バルブの周りに着くよう、スプレーを傾ける。  
#117バルブトリガーが油の中で作動するよう弾く。  
#115ナットを締める。

※ **問題： #156フィルターキャップセットからエアが入らない**

- フィルターキャップが汚れているか傷ついている。 ➤ フィルターキャップを交換する。

※ **問題： #156フィルターキャップセット上部からの漏れ**

- フィルターキャップが傷ついている。 ➤ フィルターキャップを交換する。
- バルブコアが緩んでいる。 ➤ バルブコアを締める。
- バルブコアが傷ついている。 ➤ #156フィルターキャップセットを交換する。

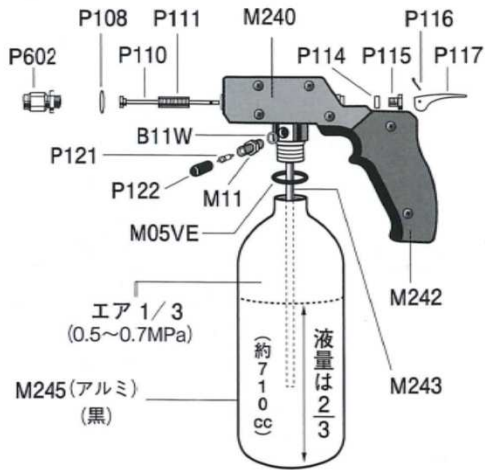
※ **問題： #156フィルターキャップセット底部からの漏れ**

- パッキンが無い汚れている。 ➤ #156フィルターキャップセットを交換する。

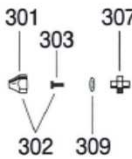
※ **問題： ノズルからの漏れ**

- #110バルブの表面の汚れ又は傷つき。 ➤ #110バルブのの清掃(前述参照のこと)
- #115ナットの締めすぎ。 ➤ 前述「#117バルブトリガーが固い」を参照のこと。
- #108ワッシャーの劣化 ➤ #108ワッシャーの交換

# 【2800M】



## オプションパーツ



P108 ワッシャー  
 P110 バルブ  
 P111 スプリング  
 P114 パッキン  
 P115 ナット  
 P116 ピン  
 P117 バルブトリガー  
 P121 バルブコア  
 P122 バルブキャップ  
 M05VE Oリング  
 M11 バルブセット  
 (B11W・121・122)  
 M240 ハンドル本体

M242 ハンドル止ネジ  
 M243 真鍮製吸引チューブ  
 M245 アルミ製タンク  
 M245 アルミ製タンク (黒)  
 P602 ノズルセット

## オプションパーツ

301 ピンストリームノズル  
 302 ノズルセット  
 303 スパイラル  
 307 アダプター  
 309 ワッシャー

### ※ P110バルブの清掃

- 1) **いかなる部品を取り外す場合は、事前に脱圧を行って下さい。**
- 2) M240ハンドル本体を取り外す。
- 3) ノズルとアダプターを取り除き清掃する。
- 4) これで見えるようになったP110バルブの表面を清掃する。  
 同じく現れたアダプターの後部による円形のくぼみも、きれいに清掃する。
- 5) アダプターとワッシャーを元に戻し、締め付ける。
- 6) P110バルブの表面とアダプターの後部の間にあるシールをリセットするため、P117バルブトリガーを数回弾く。
- 7) 清掃したノズルとワッシャーを元に戻し、締め付ける。
- 8) M240ハンドル本体を元に戻し、締め付ける。
- 9) スプレーを加圧する。
- 10) もし漏れが持続するようなら、P110バルブを交換する。

### ※ ノズルの清掃

- 1) **いかなる部品を取り外す場合は、事前に脱圧を行って下さい。**
- 2) アダプターはそのままだに、ノズルを運転時の位置から取り外す。
- 3) 極小ニッパーを使い、ノズルからスパイラルを取り外す。
- 4) 洗浄剤で、ノズルとスパイラルを洗浄する。
- 5) 取付前に、ノズルのオリフィス穴とスパイラルの細い溝が充分きれいなることを確認する。
- 6) スパイラルをノズルの中に戻し、ワッシャーを含めて組み立て直し、締め付ける。
- 7) もしノズルが正しく噴霧しないようなら、ノズルを交換する必要がある。

### ※ 問題： スプレーが全く噴霧しない。

- |                |   |                     |
|----------------|---|---------------------|
| スプレーが液で満杯。     | ➤ | 液量を2/3 に下げる。        |
| エア圧がない。        | ➤ | 加圧する。               |
| ノズルが完全に詰まっている。 | ➤ | ノズルを清掃する。(上記参照のこと。) |

### ※ 問題： 霧状でなく棒状での吐出

- |                       |   |              |
|-----------------------|---|--------------|
| 濃度が濃すぎる。              | ➤ | スプレーできるまで希釈。 |
| エア圧が小さすぎる             | ➤ | 80Psiの圧力が必要。 |
| 棒状流れノズルが設置。           | ➤ | スプレーノズルに変更。  |
| スプレーノズルにスパイラルが入っていない。 | ➤ | スパイラルを取り付ける。 |

※ **問題： P115ナットからの洩れ**

P115ナットが緩んでいる。



P115ナットを1/16廻して締める。

P115ナットの先のP110バルブのステムに潤滑油を1~2滴たらす。  
潤滑油がP115バルブの周りに着くよう、スプレーを傾ける。

P117バルブトリガーが油の中で作動するよう弾く。

P114パッキンが傷ついている。



P114パッキンを交換する。

※ **問題： P117バルブトリガーが固い**

P115ナットが固すぎる。



P115ナットを1/16廻して緩める。

P115ナットの先のP110バルブのステムに潤滑油を1~2滴たらす。  
潤滑油がP115バルブの周りに着くよう、スプレーを傾ける。

P117バルブトリガーが油の中で作動するよう弾く。

P115ナットを締める。

※ **問題： M11バルブセットからエアが入らない**

バルブコアが汚れているか傷ついている。



バルブセットを交換する。

※ **問題： M11バルブセットからの漏れ**

バルブセットが傷ついている。



バルブセットを交換する。

バルブコアが緩んでいる。



バルブコアを締める。

バルブコアが傷ついている。



M11バルブセットを交換する。

※ **問題： M11バルブセット接続部からの漏れ**

パッキンが無い汚れている。



M11バルブセットを交換する。

※ **問題： ノズルからの漏れ**

P110バルブの表面の汚れ又は傷つき。



P110バルブの清掃(前述参照のこと)

P115ナットの締めすぎ。



前述「P117バルブトリガーが固い」を参照のこと。

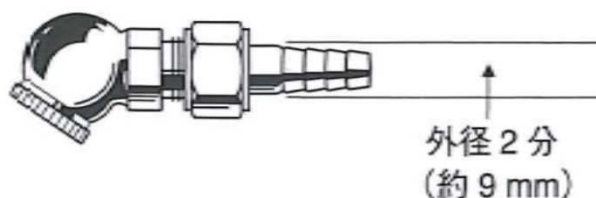
P108ワッシャーの劣化



P108ワッシャーの交換

**【エアチェック】**

エアの注入には別売りのエアチェックが必要です



お求めは：



**株式会社 タイムケミカル**

つくば 本社 〒300-0732 茨城県稲敷市上之島3154-1 TEL 0299-78-3456 FAX 0299-78-3481

つくば工場業務本部 〒300-0733 茨城県稲敷市上之島3154-1 TEL 0299-78-3456 FAX 0299-78-3481

東日本営業所 〒300-0734 茨城県稲敷市上之島3154-1 TEL 0299-78-3456 FAX 0299-78-3481

西日本営業所 〒300-0735 大阪府摂津市鳥飼和道2-8-14 TEL 072-654-8771 FAX 072-654-8773

船橋研究所 〒300-0736 千葉県船橋市習志野台2-49-19 TEL 0047-402-3453 FAX 047-402-3453

メールアドレス

info@timechemical.co.jp